

油 谷 地 区
小さな拠点づくり
基 本 構 想

令和 3 年 3 月



長門市油谷支所

〈目次〉

1	小さな拠点づくり基本構想について	1
1.1	小さな拠点づくりの趣旨	1
1.2	小さな拠点づくりとは	2
1.3	小さな拠点づくり基本構想の位置づけ	2
2	油谷地区のすがた・現状	3
2.1	地域の特色	3
2.2	地域を代表する行事・活動	4
2.3	主な公共施設と観光資源の立地.....	5
2.4	公共交通の状況	8
2.5	数字でみる油谷	9
2.6	住民の意向	11
3	油谷地区の小さな拠点づくりで解決すべき課題	15
3.1	現況からみた課題の整理	15
3.2	新たな社会潮流から考慮する視点	15
4	油谷地区の小さな拠点づくり基本構想	16
4.1	小さな拠点づくりで目指す将来像	16
4.2	小さな拠点の実現に向けた取組のアプローチ	17
5	小さな拠点の実現に向けた取組体系	18
5.1	具体的な取組内容.....	18
5.2	ランドデザイン.....	19
6	構想の推進	20
7	参考資料	21
7.1	「油谷地区小さな拠点づくり基本構想」策定経過	21
7.2	小さな拠点づくりに向けた市民アンケート	22
7.3	小さな拠点づくりに向けたワークショップ	25

Ⅰ 小さな拠点づくり基本構想について

Ⅰ.Ⅰ 小さな拠点づくりの趣旨

油谷地区は、本州の最西北端、山口県の西北部に位置しています。北側には北長門海岸国定公園に指定される美しい日本海の風景が広がっています。

日本海沿岸一帯の豊かな漁場では、古くから捕鯨や漁業が盛んに行われ、多くの漁港が点在しています。北長門海岸国定公園に指定される海岸線では、日本海の荒波に浸食された岩と白い砂浜が出入りし、変化に富んだ雄大な自然景観を生み出しています。1987年から10年間かけて奉納された123基の鳥居が、龍宮の潮吹側から100m以上にわたって並ぶ景色が広がる「元乃隅神社」、海に浮かぶ「棚田」のシルエット、本州最西北端に突き出した「川尻岬」の緑青色の海などは、訪れる人々を魅了します。

また、油谷地区には、美しい海を臨む「油谷湾温泉」があり、多くの人が訪れています。一方、歴史の舞台では、楊貴妃伝説など浪漫溢れる物語も数多くあります。

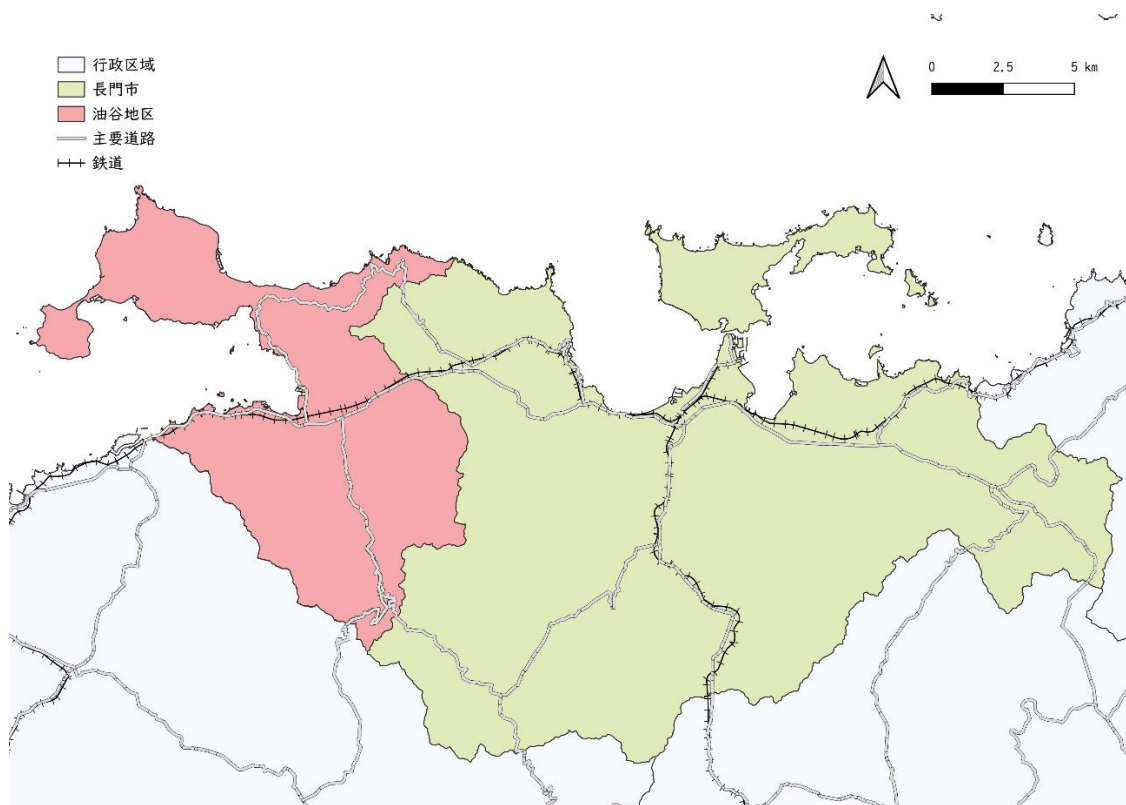
油谷地区は、こうした豊かな大自然とこれまで築かれてきた歴史や文化を融合したまちづくりを進めています。

一方、人口減少や少子高齢化、都市部への人口流出により、健全な地域社会の活動維持や豊かな地域資源の維持が困難な状況になっています。

このような現状を踏まえ、国が推奨する「小さな拠点づくり」を推進し、油谷地区が抱える課題解決に向けた取組を進めることで、子どもから高齢者までが楽しく笑って暮らせる元気ある地域を目指していきます。

そこで、油谷地区の将来の暮らし方について、「小さな拠点づくり基本構想」として整理します。

[油谷地区の位置]

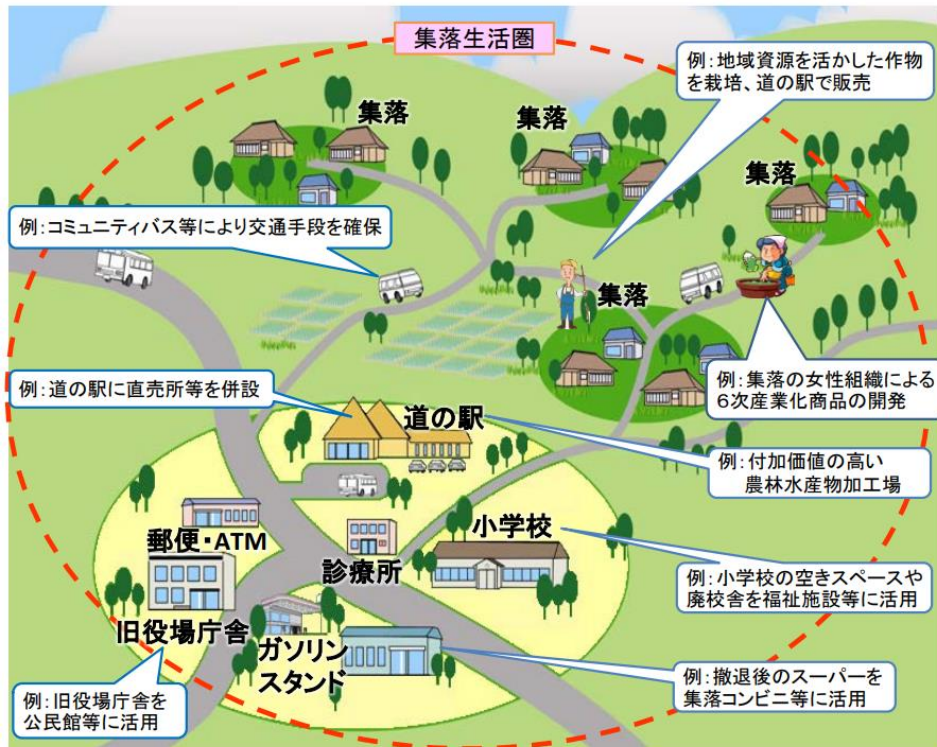


1.2 小さな拠点づくりとは

中山間地域等の集落生活圏（複数の集落を含む生活圏）において、安心して暮らしていく上で必要な生活サービスを受け続けられる環境を維持していくために、地域住民が、自治体や事業者、各種団体と協力・役割分担をしながら、各種生活支援機能を集約・確保する取組や地域の資源を活用し、しごと・収入を確保する取組を「小さな拠点」づくりといいます。

（内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 住み慣れた地域で暮らし続けるために～地域生活を支える「小さな拠点」づくりの手引き～から引用）

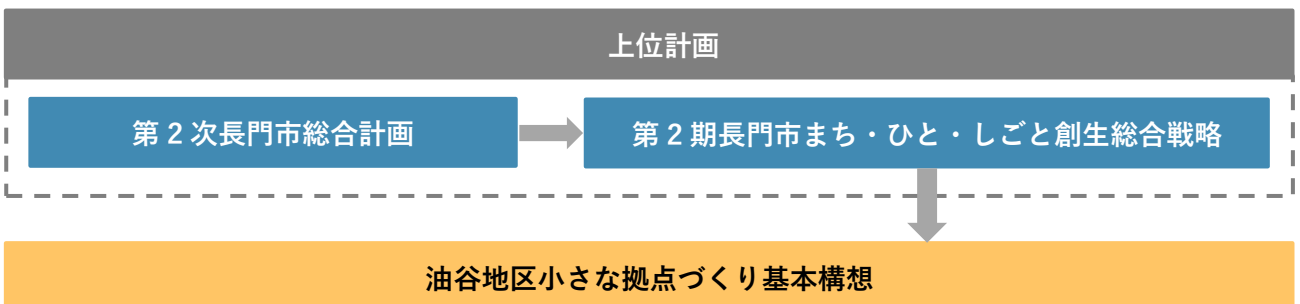
【「小さな拠点」づくりの取組イメージ】



出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 住み慣れた地域で暮らし続けるために～地域生活を支える「小さな拠点」づくりの手引き～

1.3 小さな拠点づくり基本構想の位置づけ

第2次長門市総合計画や第2期長門市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、市民や地域協働体の参画による生活圏域内における「小さな拠点」の整備が位置づけられています。そのため、油谷地区において、日常生活に必要な最低限の機能・サービスを集約した「小さな拠点」の整備を市民参画により進め、元気な生活圏の形成を図ります。



2 油谷地区のすがた・現状

2.1 地域の特徴

油谷地区の主な地域の特徴を以下に整理します。

123 基の鳥居の先に海が広がるまち



雄大な棚田の広がるまち



異国情緒が体感できるまち



コバルトブルーの日本海が楽しめるまち



田舎暮らしができるまち



コミュニティ活動が盛んなまち



2.2 地域を代表する行事・活動

油谷地区では、地元のイベントや活動が盛んに実施されています。

ひとまるカフェ

地域の住民が誰でも気軽に自由に集まる場として、また新たな人とのつながりを作る場です。



写真：長門市社会福祉協議会 HP

宇津賀ふるさとまつり

油谷後畑の旧文洋小学校を会場に、宇津賀地区まちづくり協議会の主催で各種バザーや演奏などのステージが行われています。



夏祭り

油谷地域の最大イベントとして定着しています。音楽と花火と炎とレーザーの共演する楊貴妃花火ファンタジーは見応え抜群です。



ながとトレイル

長門市油谷をまわるトレイルランニング・ウォーキングコース「ながとトレイル」が開通しています。



シーカヤックフェスティバル

油谷湾のシーカヤックレースは、油谷湾の美しい景色を堪能しながらレースを行っています。



油谷こどもミュージカル

「油谷こどもミュージカル」は定期的に公演を行っています。このミュージカルには、市内の小学生から高校生の団員が所属しています。



JAL 向津具ダブルマラソン

元乃隅神社や東後畑棚田等の風光明媚で神秘的な景観あふれる向津具半島のコース走破するマラソンです。



むかつ国で遊ぼう協議会

「観光の枠を超えた楽しみ方」を自然・食・遊び・学び・人・暮らしを通じて来訪者に向津具の素晴らしさを知ってもらう活動をしています。



写真：むかつ国で遊ぼう協議会 HP

交通弱者支援・しげとも号

地区のボランティアが、登録者（公共交通機関の利用が困難な高齢者等）を自宅から商業施設等へ送迎しています。



写真：山口県「買い物弱者対策」事例集

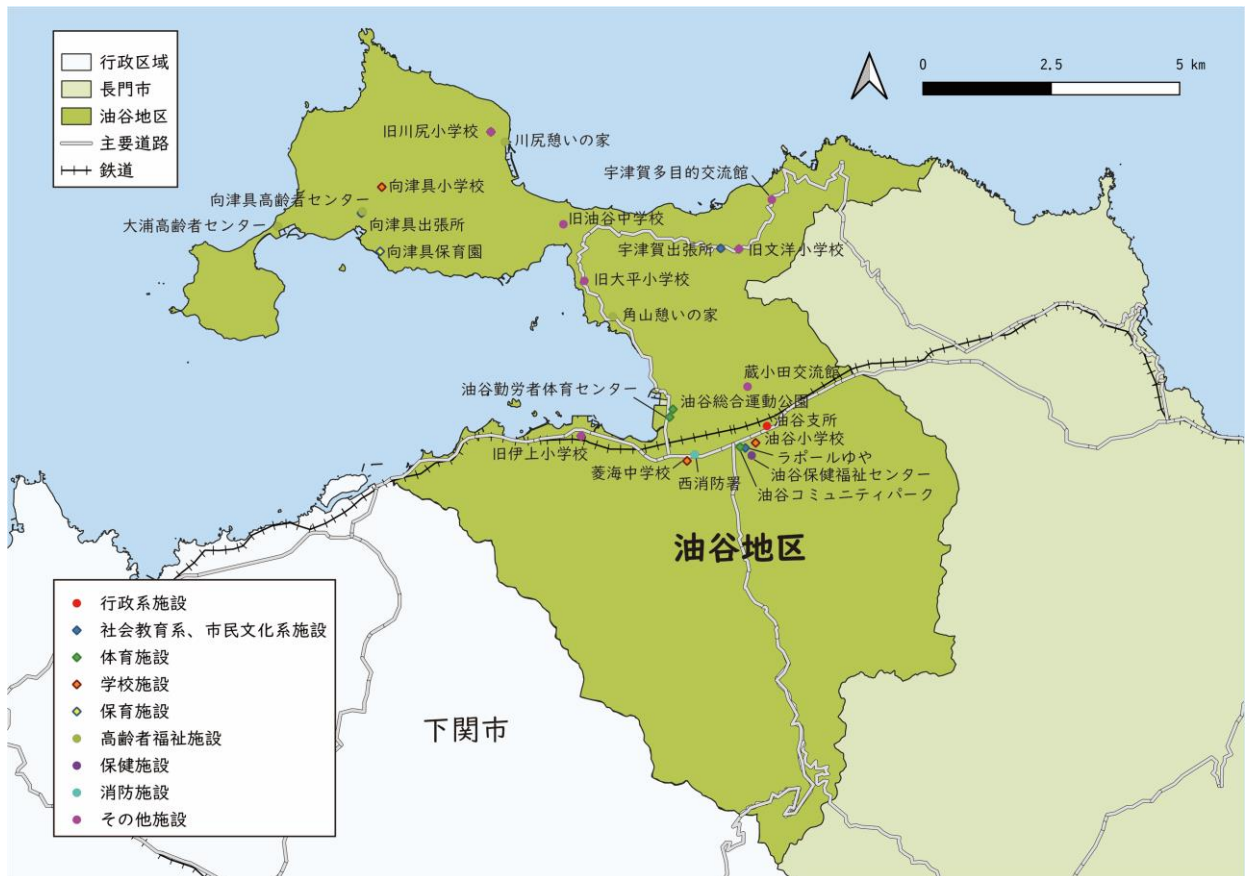
2.3 主な公共施設と観光資源の立地

油谷支所周辺の生活サービスが油谷地区に住む住民の生活を支えています。一方で、保育施設や高齢者福祉施設等の公共サービスが立地していない地区があります。

また、行政機能とコミュニティ施設の中心であるべき油谷支所と地域を守る西消防署は、老朽化が進行しています。

油谷支所周辺の生活サービスが油谷地区に住む住民の生活を支えている

[主な公共施設の立地]



保育施設や高齢者福祉施設等の公共施設が立地していない地区が存在
油谷支所や西消防署は建設後 50 年近く経過

[主な公共施設一覧]

分類	地区	施設名	利用範囲		建設年度
			広域	地域	
行政系施設	菱海	油谷支所	●		1969年
	向津具	向津具出張所		●	1979年
	宇津賀	宇津賀出張所		●	1980年
社会教育系、市民文化系施設	菱海	油谷中央公民館・ラポールゆや (図書館分室)	●		1997年
	向津具	向津具公民館		●	1979年
	宇津賀	宇津賀公民館		●	1980年
体育施設	宇津賀	文洋体育館		●	1974年
	向津具	川尻体育館		●	1975年
	菱海	伊上体育館		●	1977年
	菱海	油谷勤労者体育センター	●		1980年
	菱海	油谷総合運動公園	●		1989年
	菱海	油谷コミュニティパーク	●		1997年
学校施設	菱海	油谷小学校		●	1965年
	向津具	向津具小学校		●	1988年
	菱海	菱海中学校		●	1979年
保育施設	菱海	菱海保育園		●	1994年
	向津具	向津具保育園		●	1985年
高齢者福祉施設	宇津賀	角山老人憩いの家		●	1978年
	向津具	川尻老人憩いの家		●	1985年
	向津具	向津具高齢者センター		●	1992年
	向津具	大浦高齢者交流センター		●	1997年
保健施設	菱海	油谷保健福祉センター	●		2004年
消防施設	菱海	西消防署	●		1973年
その他施設	宇津賀	旧文洋小学校		●	1968年
	宇津賀	旧大平小学校		●	1953年
	向津具	旧川尻小学校		●	1971年
	菱海	旧伊上小学校		●	1985年
	宇津賀	旧油谷中学校		●	1969年
	菱海	蔵小田交流館		●	1977年
	宇津賀	宇津賀多目的交流館		●	1990年

海沿いに観光資源が位置

[主な観光資源の立地]



[主な観光資源一覧]

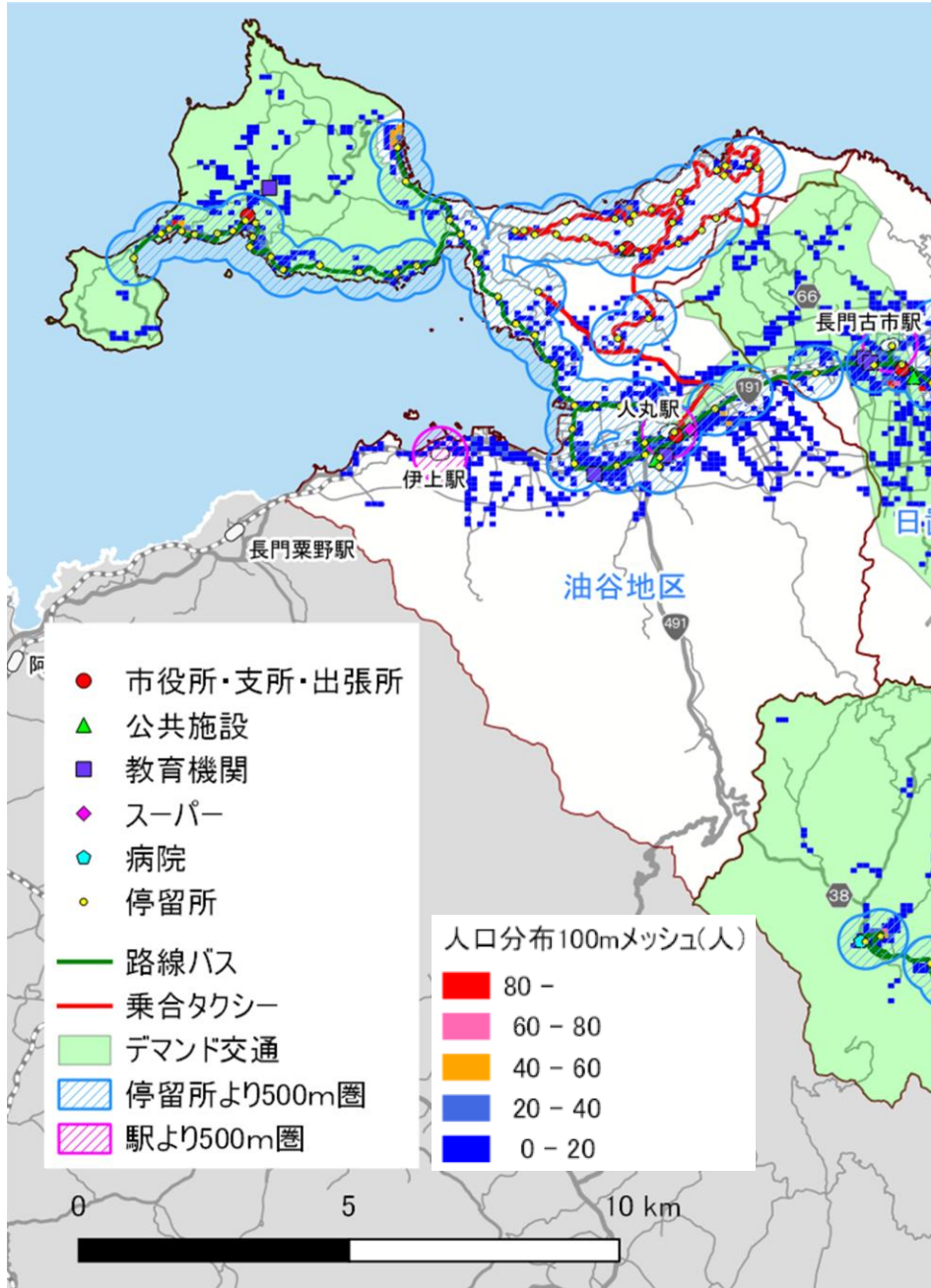
地区	資源名
菱海	油谷湾温泉
菱海	伊上海浜公園
宇津賀	妙見山展望公園
宇津賀	棚田
宇津賀	立石観音
宇津賀	元乃隅神社
宇津賀	龍宮の潮吹
向津具	大浜海水浴場
向津具	楊貴妃の里
向津具	川尻岬
向津具	俵島

2.4 公共交通の状況

デマンド交通や乗合タクシーが運行しているものの交通空白地域が存在しています。

デマンド交通・乗合タクシーが
運行しているが交通空白地域が存在

[公共交通のサービス圏]



H29 長門市地域公共交通網形成計画

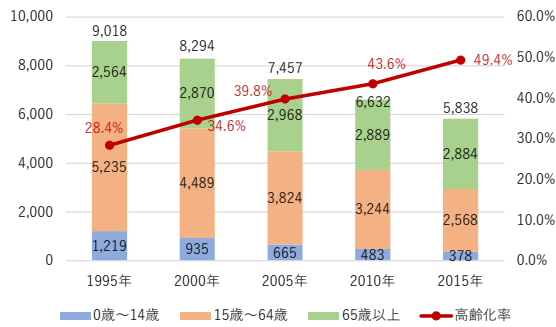
2.5 数字でみる油谷

2015年に油谷地区全体の人口は5,838人まで減少しており、また、高齢化率は、49.4%となっており、地区のコミュニティの維持が困難になっていくことが予想されます。

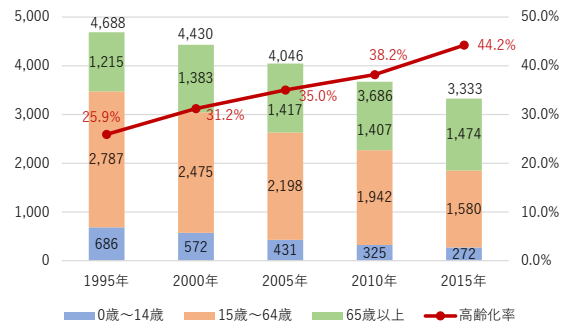
また、人口減少が続くと豊かな観光資源を守ることが困難になっていくことが予想されます。

総人口と生産年齢人口は、著しく減少、高齢化率も増加

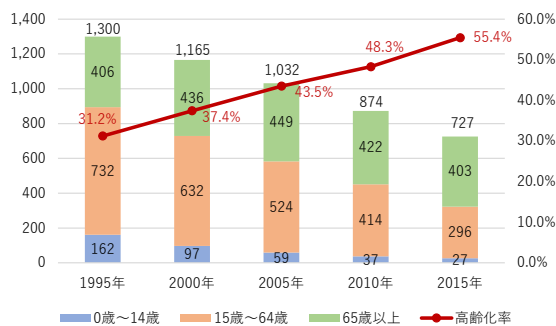
[油谷地区全体の人口]



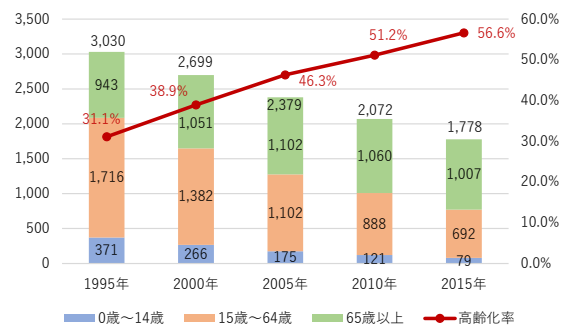
[菱海地区の人口]



[宇津賀地区の人口]



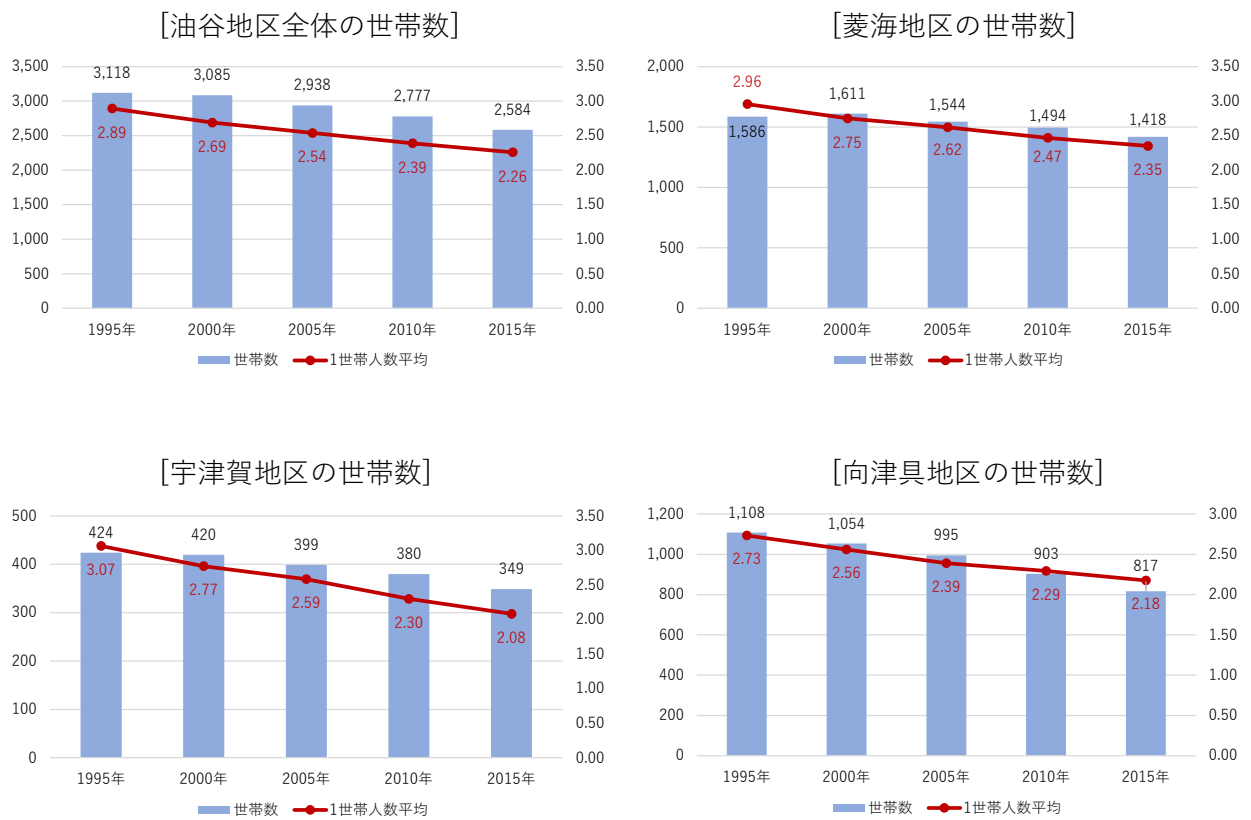
[向津具地区の人口]



データ：国勢調査

世帯数は減少傾向にあるとともに、1世帯当たりの平均人数も減少傾向にあります。

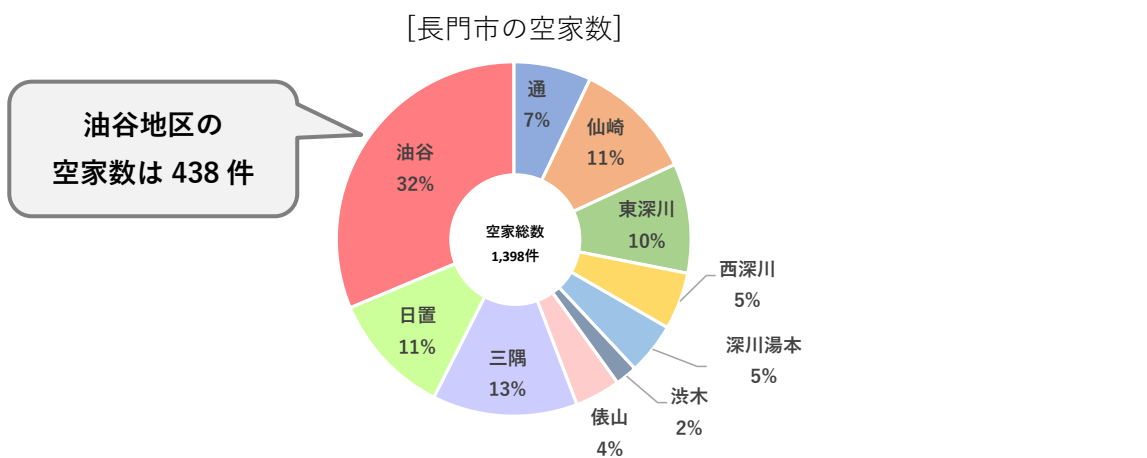
1世帯当たりの平均人数も減少傾向



データ：国勢調査

長門市には、空家が多数あり、長門市内の空家のうち、32%を油谷地区が占めています。

市内の空家のうち 32%が油谷地区



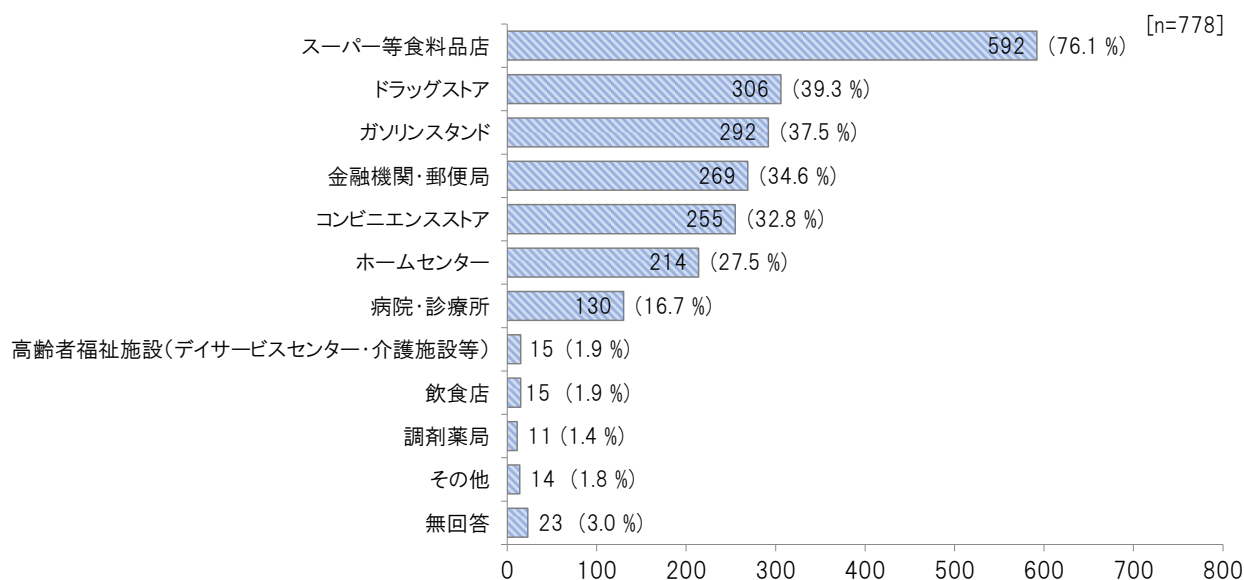
データ：2016年長門市空家実態調査

2.6 住民の意向

(1) 油谷地区小さな拠点づくりに向けた市民アンケート

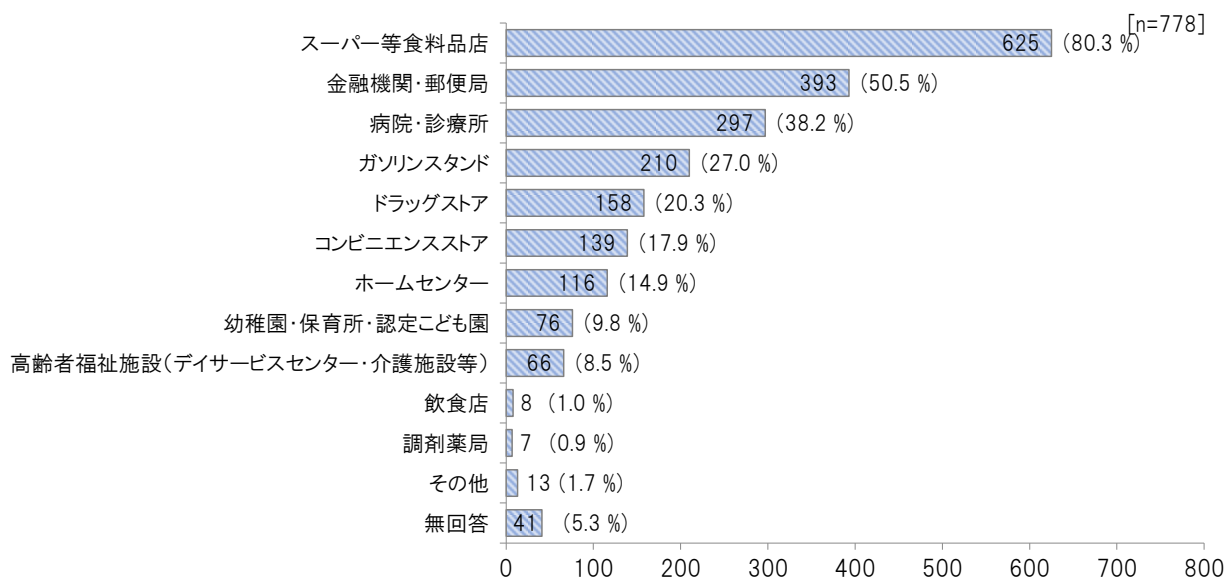
① 油谷地区内において、日常生活でよく利用する施設・サービス

「スーパー等食料品店：592 (76.1%)」が最も多く、次いで「ドラッグストア：306 (39.3%)」「ガソリンスタンド：292 (37.5%)」となっています。



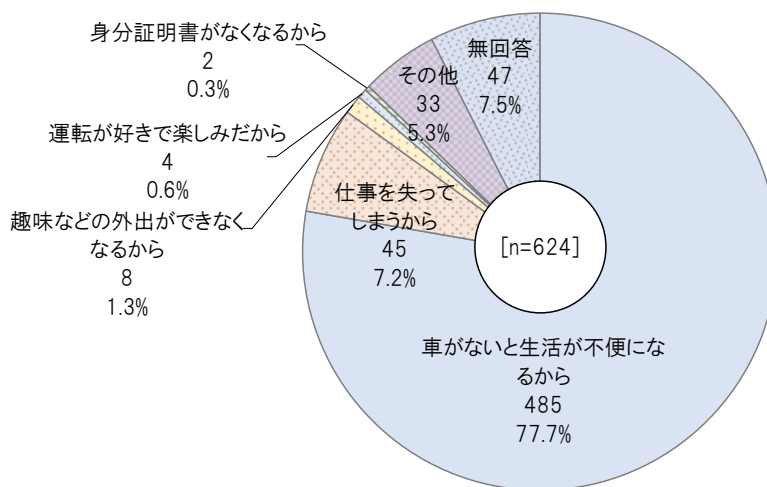
② 油谷地区内において、最低限残すべき施設・サービス

「スーパー等食料品店：625 (80.3%)」が最も多く、次いで「金融機関・郵便局：393 (50.5%)」「病院・診療所：297 (38.2%)」となっています。



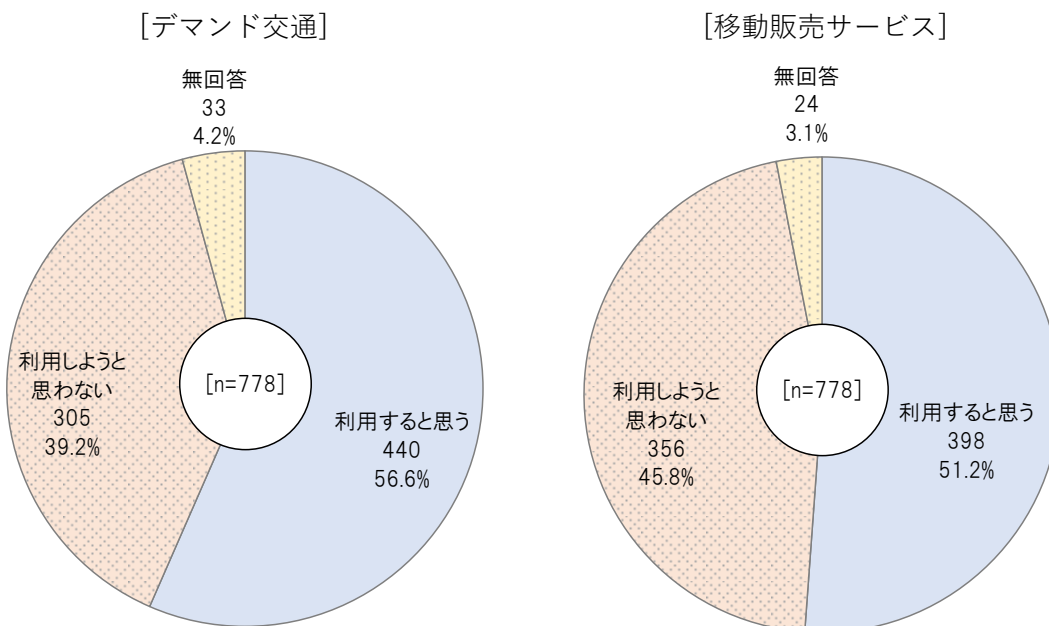
③ 運転免許証の自主返納をためらう理由

「車がないと生活が不便になるから：485 (77.7%)」が最も多く、次いで「仕事を失ってしまうから：45 (7.2%)」「趣味などの外出ができなくなるから：8 (1.3%)」となっています。



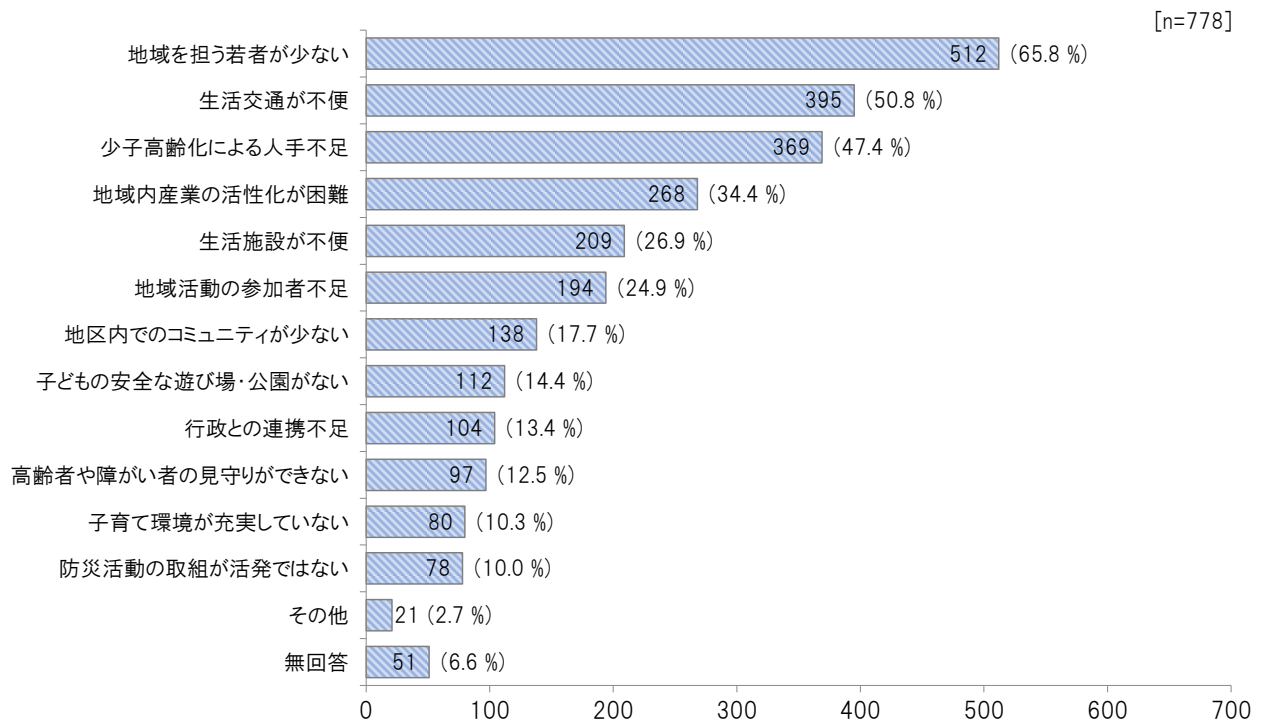
④ デマンド交通と移動販売サービスの利用

「利用すると思う：440 (56.6%)」が最も多く、次いで「利用しようと思わない：305 (39.2%)」となっています。



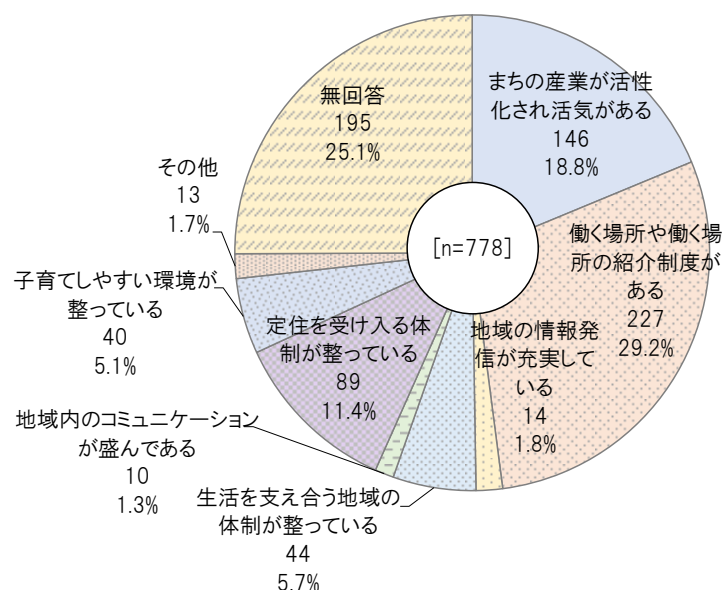
⑤ 油谷地区での困りごと

「地域を担う若者が少ない：512 (65.8%)」が最も多く、次いで「生活交通が不便：395 (50.8%)」「少子高齢化による人手不足：369 (47.4%)」となっています。



⑥ 油谷地区を離れた方々が、油谷地区に戻りたいと思うことや地域外の方々が油谷地区に住んでみたいと思うために必要なこと

「働く場所や働く場所の紹介制度がある：227 (29.2%)」が最も多く、次いで「まちの産業が活性化され活気がある：146 (18.8%)」「定住を受け入る体制が整っている：89 (11.4%)」となっています。



(2) 油谷地区小さな拠点づくりに向けた地区別ワークショップ

地域別の将来の姿

宇津賀

- 全世帯が住みやすいまち
- 他業種のフィールドとコラボ
- 若者・高齢者が元気なまち
- 6次産業の活性化
- 定住したいまち
- 一大観光地

向津具

- 今あるものを最大限活用して無駄のないまち
- 地区の中でヒトが交流、モノ・サービスが循環するまち
- 子どもや若者が伸び伸びできるまち
- 若者が戻ってきたい、移住したくなるまち

菱海

- 子どもから高齢者までみんなで助け合うやさしいまち
- 若い人が集まり活躍できるまち
- みんなが集まれる楽しいコミュニティがあるまち
- 人間味のあるまち

将来の姿を実現するために自分たちでできること

宇津賀

- 仕事を生み出す
- 地域資源を活かした活動
- 情報発信
- 仲良く生きる

向津具

- 今あるものを最大限活用する
- 若い移住者の定住促進、支援
- 子育てしやすい地域を発信
- 人とのコミュニケーション

菱海

- みんなで助け合って生活
- 古民家や施設の利活用
- 人が集まれる場所づくり
- 自治会の行事に参加

(3) 油谷地区小さな拠点づくりに向けた全体ワークショップ

自分たちでできること

- お手軽カフェ・レストランをつくる
- 近所の高齢者の見守り
- 地区の人との交流を深める
- 集まれる場所・交流の場所をつくる
- 草刈・ゴミ拾い
- 子どもの見守り
- しめ縄や弁当作り等の地区の伝統を守る活動

行政に支援してほしいこと

- 交通網の充実（デマンド交通）
- 河川・道路の管理
- 空家をコミュニティセンターとして活用
- ラポールゆやにカフェを開設
- 地域医療の充実
- 若者の働く場所づくりや企業誘致
- ネット環境の整備
- 一次産業の活性化

支所に必要な機能・サービス

- 本庁・県庁・税務署とのリモート相談
- 会議室、ワークスペース
- フリースペース、イベントスペース
- 油谷地区の良さをPRする発信基地
- 交流できる場所
- 喫茶コーナー
- 保健センター
- 金融関係（ATM）
- キッズスペース

油谷支所と西消防署の建替位置

- 油谷支所
 - 現在の油谷支所
 - ラポールゆや周辺
 - ラポールゆやに支所機能を入れる
 - JA 油谷支所
- 西消防署
 - ラポールゆや周辺

3 油谷地区の小さな拠点づくりで解決すべき課題

3.1 現況からみた課題の整理

2章で整理した油谷地区の現状のまとめと、それらを解決するための課題を整理します。

分野	現状・問題点	課題
人口	<ul style="list-style-type: none"> ●2015年に人口は5,838人まで減少しており、高齢化率は、49.4%となっており、地区のコミュニティの維持が困難 ●人口減少が続くと豊かな観光資源を守っていくことが困難 	<ul style="list-style-type: none"> ●人口減に歯止めをかけるために、若者の移住・定住の促進に向けた仕組みづくりが必要 ●豊かな地域資源を守り続けるための人材を増やす取組が必要
生活サービス	<ul style="list-style-type: none"> ●油谷支所周辺的生活サービスが油谷地区に住む住民の生活を支えている ●一部の公共サービスが提供できていない地区が存在 	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の生活を守るためにも、今ある生活サービスの維持が必要
空家・空地	<ul style="list-style-type: none"> ●空家が多数あり、市内に占める32%が油谷地区である ●今後、人口減少と高齢化が進むと、更なる空家・空地が増加し、防犯・景観・環境の悪化につながり、まちへの愛着心の低下や定住人口の減少につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ●地区内に存在する空家・空き地や地域資源を活用し、魅力的なまちづくりのマネジメントが必要
交通	<ul style="list-style-type: none"> ●デマンド交通や乗合タクシーが運行しているものの交通空白地域が存在 ●油谷地区での困りごととして、「生活交通が不便」が上位2位となっている 	<ul style="list-style-type: none"> ●日常生活の移動確保のため、地域特性、移動ニーズにあった地域間ネットワークづくりと地域で支え合う交通手段の確保が必要
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ●行政機能とコミュニティ施設の中心であるべき油谷支所と地域を守る西消防署が老朽化 ●子どもから高齢者までが集まれる交流の場が必要とされている 	<ul style="list-style-type: none"> ●最低限のサービスを守るため、行政機能とコミュニティ施設の維持・存続が必要 ●誰もが安心して集まれる地域コミュニティの場の形成が必要
市民活動	<ul style="list-style-type: none"> ●イベントの開催や買い物代行、自然学校等を実施 ●地元のイベントや祭りが盛んに実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●それぞれの活動をサポートしながら、連携させ、地域がより一体となり、地域を盛り上げる必要がある

3.2 新たな社会潮流から考慮する視点

昨今、社会に大きく影響している潮流から考慮する視点を整理します。

	課題
新型コロナウイルス	<ul style="list-style-type: none"> ●予測不能な緊急事態にも柔軟に対応できる生活サービスの提供や暮らし方、観光のあり方の検討が必要
自然災害	<ul style="list-style-type: none"> ●災害が起こったとしても、自分達の命と暮らしを守り抜くまちづくりが必要

4 油谷地区の小さな拠点づくり基本構想

4.1 小さな拠点づくりで目指す将来像

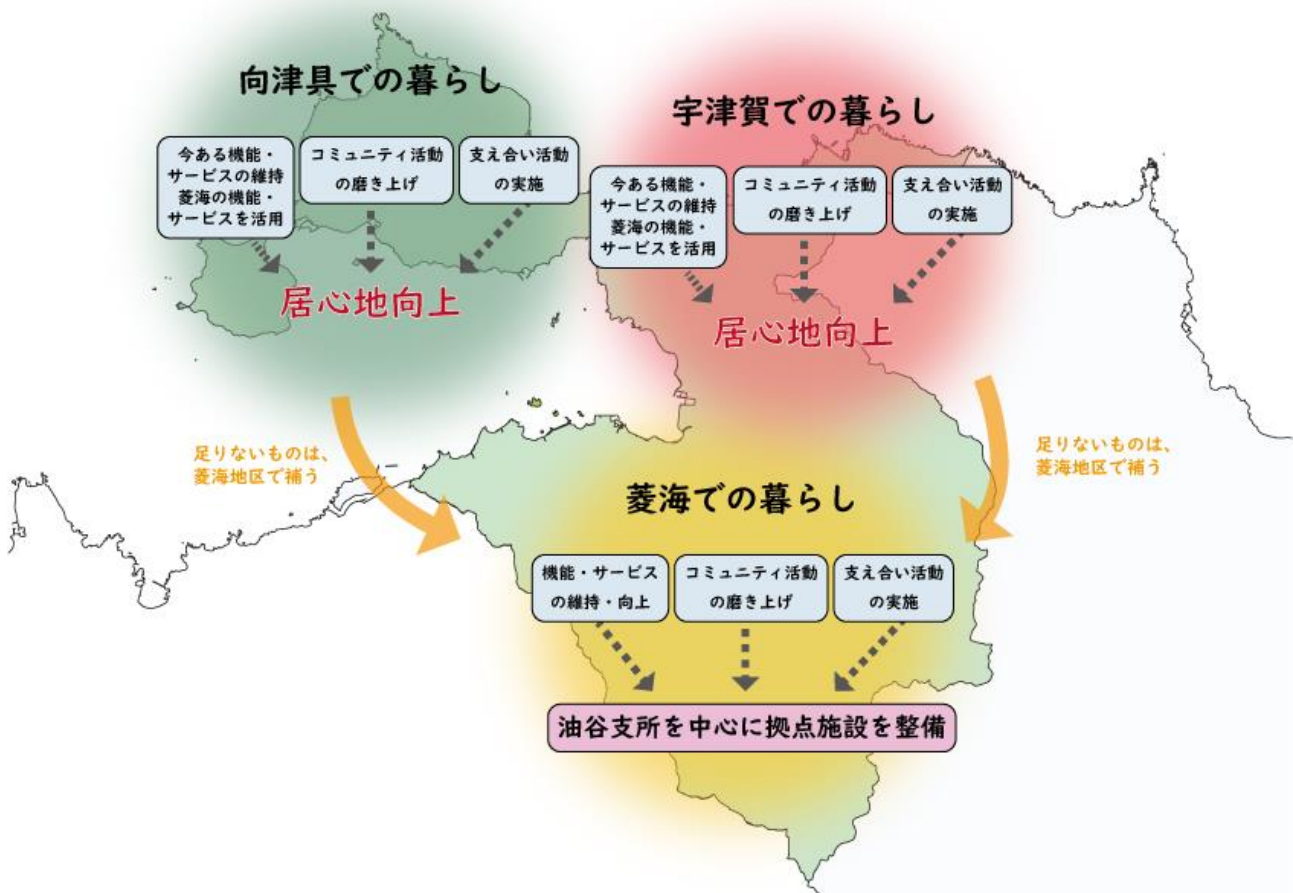
油谷地区には、美しい自然や歴史・文化・伝統、温泉などの多様な地域資源、様々な団体の活動といった、誇れる油谷地区の特色があります。こうした魅力ある資源や活動は、過去から引き継がれてきたものであるとともに、時間をかけて成長してきました。

しかし、油谷地区で少子高齢化と人口減少が進行するなかで、これまで培ってきた魅力ある資源や活動などを若い世代に継承し、住み続けられるまちを維持していくことが困難な状況に陥っています。

そうした背景と第3章で示した油谷地区の課題と社会潮流からみた課題を解決するために、油谷支所を中心に拠点施設を整備し、向津具地区や宇津賀地区を支え合いながら、暮らしの質を上げていくことで、油谷地区全体が居心地の向上を図り、そこに住み続けたくなったり、地域外の人が住みたくなったりする「誰ひとり取り残さず“いごちよく”住み続けられるまち」を目指します。また、油谷地区全体の暮らしの中心となる交流拠点をつくることで、相乗効果を図ります。

小さな拠点づくりで目指す将来像

誰ひとり取り残さず“いごちよく”住み続けられるまち



4.2 小さな拠点の実現に向けた取組のアプローチ

油谷地区の小さな拠点づくりは、以下4つの基本方針に基づいて取り組みを進めることで「誰ひとり取り残さず“いごこちよく”住み続けられるまち」へとつなげていきます。

アプローチ1	居心地のよさを追求し、 住み続けたいくなる・住みたいくなるまちづくり
機能・サービス	人口減少に歯止めをかけることや若者の移住・定住を促進するために、生活に必要な機能やサービスの維持と子育て世代が子どもを育てやすく暮らしやすい環境を整えます。また、感染症や災害等のあらゆる事態にも柔軟に対応し多様な暮らし方ができるまちをつくることで居心地のよいまちづくりを図ります。
アプローチ2	地区間と地区内のつながりとネットワークを 強めるまちづくり
つながり	地域コミュニティ活動の場を広げることや、子どもから高齢者を地域で守るために、地区内の人的なつながりを強化します。また、暮らしを支える生活機能やサービスを地区間で共有・補完できるように、地区間の交通ネットワークの充実や地域住民同士で支え合う交通手段の仕組みづくりを図ります。
アプローチ3	油谷に住む一人ひとりが主体となった、 地域を守り、支えるまちづくり
守る・支える	豊かな地域資源や誇り、子ども、高齢者を守るために、住民一人ひとりが主体となった地域での活動を広げます。また、そういった活動で活躍する人たちを応援できる仕組みをつくり、地区全体で地域を守り、支えるまちを目指します。
アプローチ4	油谷地区の全員が安心して集まれる 居心地のよい場づくり
場づくり	誰もが安心して楽しめる居心地のよい場をつくるために、地域のコミュニティ活動の磨き上げや、油谷地区にたくさん存在する空家等の利活用、油谷地区全体の暮らしの中心となる交流拠点づくりを進め、魅力的な空間を創出します。

5 小さな拠点の実現に向けた取組体系

5.1 具体的な取組内容

小さな拠点づくりで目指す将来像を実現するために必要な取組アイデア（案）を掲げます。

将来像	アプローチ	取組み	具体的な取組み内容（案）	主体	
				行政	住民
誰ひとり取り残さず、いづこちよく“住み続けられるまち”	居心地のよさを追求し、 住み続けたい・住みたいまちづくり	暮らしを支える機能を維持・充実させます	○地元の食材を使った地元食堂づくり		●
		安心して子育てできる地域づくりを進めます	○買い物代行サービスの実施	●	
		あらゆる事態にも対応できる強いまちをつくります	○市営住宅の整備	●	
		移住・定住者の受け入れ体制をつくります	○子育てサロンの実施	●	
	地区間と地区内のつながりとネットワークを 強めるまちづくり	人と人を繋ぐ仕組みづくりを進めます	○地域ぐるみの子育て支援の実施		●
		地区間の交通ネットワークの充実を図ります	○防災訓練の実施	●	
		地域で支え合う交通手段の仕組みをつくります	○防災備品の充実	●	
		情報ネットワーク環境を整えます	○移住定住相談窓口の設置	●	
	油谷に住む一人ひとりが主体となった、 地域を守り、支えるまちづくり	豊かな地域資源・誇りを守る活動を進めます	○子どもと高齢者の見守りの実施		●
		子どもや高齢者を地域で守る活動を進めます	○イベントの充実		●
		まちで活躍する人を応援する仕組みをつくります	○交流の場づくり		●
		豊かな地域コミュニティをつくります	○雇用の創出支援	●	
油谷地区の全員が安心して集まれる 居心地のよい場づくり	空家・空地を魅力的な居場所にします	○デマンド交通の運行	●		
	活動の中心となる拠点づくりを進めます	○乗合タクシーの充実	●		
		○生活交通のシェアによる移動手段の確保		●	
		○地区全域に光ファイバー網の整備	●		
		○自然体験学習の実施		●	
		○草刈・ゴミ拾いの実施		●	
		○伝統継承塾の開催		●	
		○地域資源の保全		●	
		○登下校時の交通安全指導員の配置		●	
		○高齢者の見守りの実施		●	
		○ふるさと投資の実施（クラウドファンディング等）		●	
		○外部人材（専門家・民間）の派遣	●		
		○雇用の創出支援	●		
		○地域自治組織の充実		●	
		○地域のリーダーづくり		●	
		○イベントの充実		●	
		○空家・空地の情報発信	●		
		○空家・空地の利活用		●	
		○油谷支所に併設した交流の場づくり・活動の場づくり	●		

5.2 グランドデザイン

油谷地区の居心地を向上させるために、市民が各地域でできることと各地域が支え合いながらできること、行政が支援することをそれぞれが連携しながら取り組んでいきます。

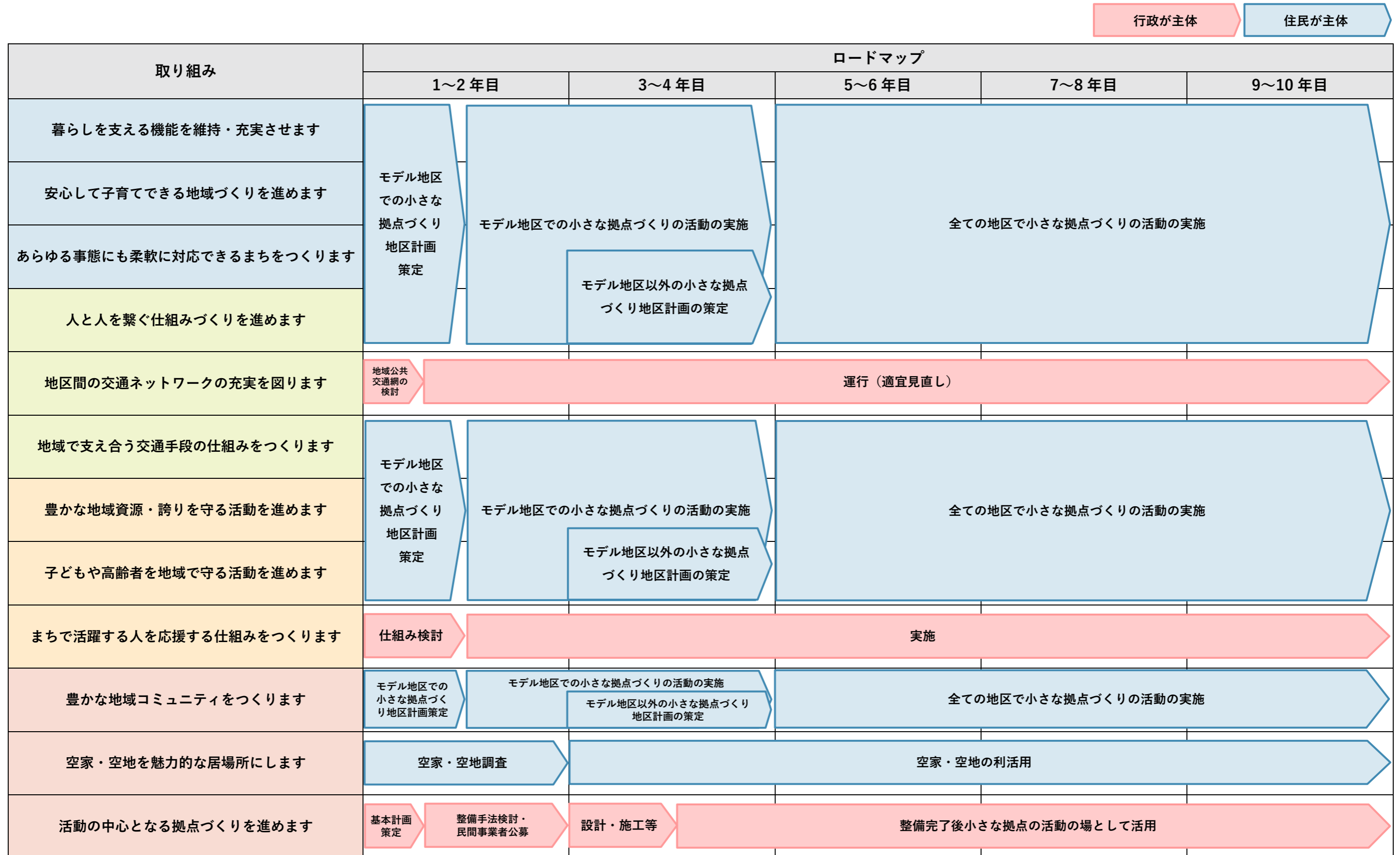
また、市民の暮らしをより豊かにすることや市民の活動を活発にさせるために、油谷地区の誰もが気軽に利用することができる交流拠点や活動拠点の整備を進めていくことが必要であると考えられます。

[油谷地区の小さな拠点づくりが目指すイメージ]



6 構想の推進

小さな拠点づくりの取組を進めていくための手順を以下に示します。



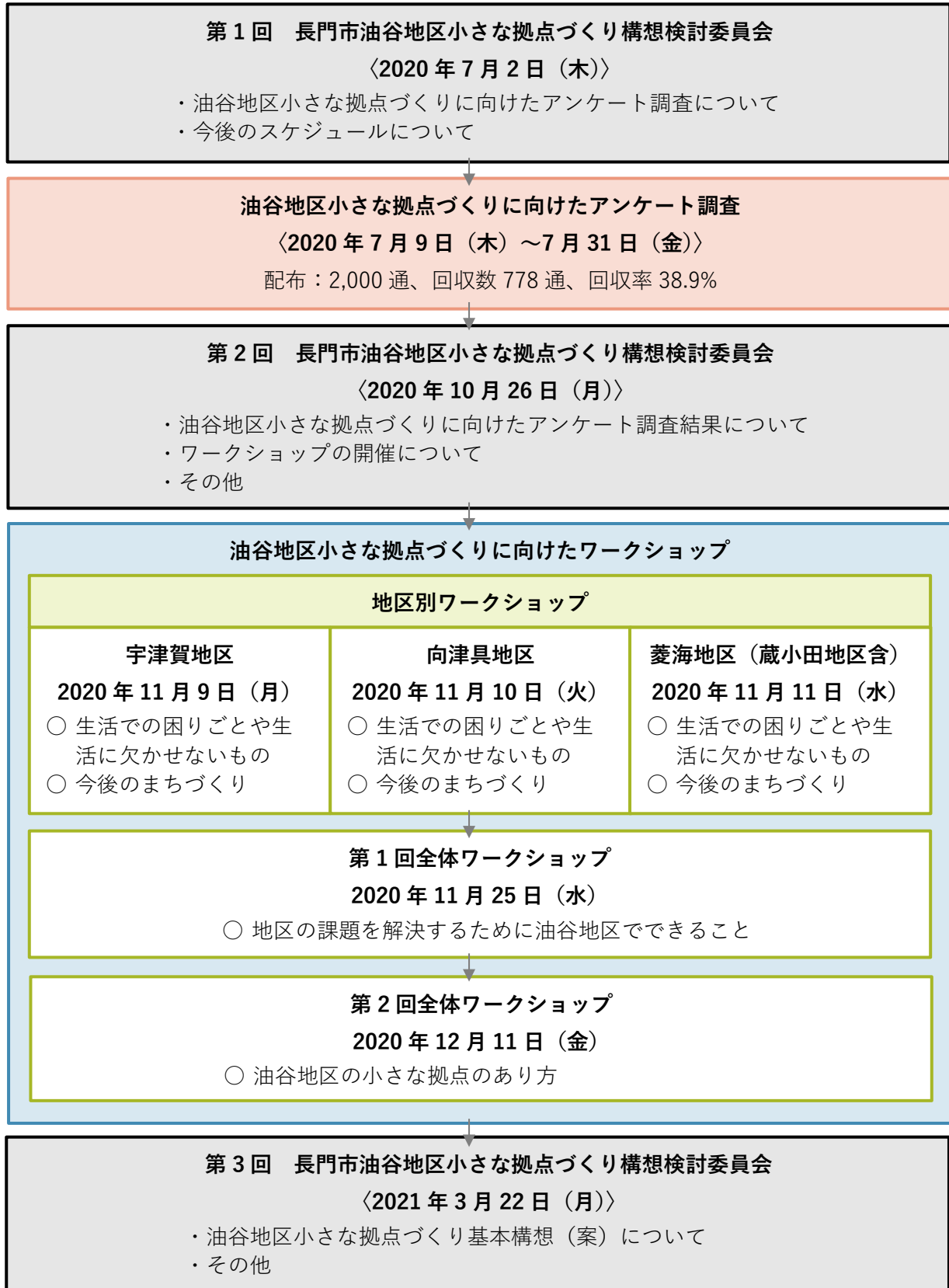
行政が主体

住民が主体

7 参考資料

7.1 「油谷地区小さな拠点づくり基本構想」策定経過

本基本構想の策定にあたっては、本市の市民や団体の代表で構成される「油谷地区小さな拠点づくり構想検討委員会」において協議が行われ、策定されました。



7.2 小さな拠点づくりに向けた市民アンケート

(1) 調査概要

調 査 目 的	<p>長門市油谷地区においては、油谷支所や西消防署などの公共施設の老朽化に伴う公共施設の更新及び油谷保健福祉センターの適正配置が必要と考えている。</p> <p>また、人口減少、少子高齢化、都市部への人口流出により、健全な地域社会の活動維持が困難な状況になっている。そのため、持続可能な地域社会の構築に向け、油谷支所を含む公共施設の更新や適正配置と合わせて、国が推奨する「小さな拠点」の実現に向け、地域住民へ取組の重要性について周知を行ってきた。</p> <p>本年度は、これらの活動を踏まえ、本格的に小さな拠点づくりを推進するための第一歩として、油谷地区での生活や行政サービス等について、住民皆さまのご意見・お考えをお聞きするため、アンケート調査を実施した。</p>
対 象 者	18歳以上の市民 2,000 人を無作為で抽出
実 施 期 間	2020年7月9日（木）～7月31日（金）（ 休 切日）
配布数・回収率	配布：2,000 通、回収数 778 通 回収率 38.9%

(2) 総括

●日常生活で使用する施設について

○油谷地区内

- ・“日常生活でよく利用する”生活施設は、「スーパー等食料品店：592 (76.1%)」が最も多く、次いで「ドラッグストア：306 (39.3%)」「ガソリンスタンド：292 (37.5%)」となっている。また、年齢が高くなるにつれ、金融機関・郵便局、病院・診療所の割合が高くなっている。
- ・“日常生活でよく利用する”公共施設は、「油谷支所：367 (47.2%)」が最も多く、次いで「油谷中央公民館・ラポールゆや (図書館分室)：275 (35.3%)」「油谷保健福祉センター：87 (11.2%)」となっている。また、20代から40代は、「油谷中央公民館・ラポールゆや (図書館分室)」の割合が高くなっている。
- ・“最低限残すべき”生活施設は、「スーパー等食料品店：625 (80.3%)」が最も多く、次いで「金融機関・郵便局：393 (50.5%)」「病院・診療所：297 (38.2%)」となっている。
- ・“最低限残すべき”公共施設は、「油谷支所：468 (60.2%)」が最も多く、次いで「油谷中央公民館・ラポールゆや (図書館分室)：250 (32.1%)」「油谷小学校：218 (28.0%)」となっている。

○油谷地区外 (長門地区・三隅地区・日置地区)

- ・“日常生活でよく利用する”生活施設は、「スーパー等食料品店：474 (60.9%)」が最も多く、次いで「ドラッグストア：331 (42.5%)」「病院・診療所：226 (29.0%)」となっている。
- ・“日常生活でよく利用する”公共施設は、「社会教育系、市民文化系施設 (公民館・ルネッサながと等)：243 (31.2%)」が最も多く、次いで「行政系施設 (市役所・支所等)：226 (29.0%)」「保健施設 (長門市保健センター等)：38 (4.9%)」となっている。

●日常生活での交通手段について

○買い物、通院、通勤・通学、娯楽、公共サービスまでの交通手段

- ・「自動車 (自分で運転)」が最も多く、次いで「家族等の送迎」となっている。また、70代以上は、他の年齢に比べ「家族等の送迎」の割合が高くなっている。

○自家用車が運転できないもしくは使えなくなった場合の交通手段

- ・「電車やバス等の公共交通を利用する：253 (32.5%)」が最も多く、次いで「家族や知人の送迎で生活する：156 (20.1%)」「徒歩・自転車で行ける範囲で生活する：74 (9.5%)」となっている。

●デマンドバスについて

- ・「利用すると思う：440 (56.6%)」が最も多く、次いで「利用しようと思わない：305 (39.2%)」となっている。「利用しようとは思わない」理由として、「特に交通手段で困っていないから：181 (59.3%)」が最も多く、次いで「利便性が悪そうだから：45 (14.8%)」「予約が面倒だから：41 (13.4%)」となっている。また、年齢が高くなるにつれて、デマンドバスを「利用したいと思う」の割合が高くなっている。

●移動販売サービスについて

- ・「利用すると思う：398 (51.2%)」が最も多く、次いで「利用しようと思わない：356 (45.8%)」となっている。「利用しようと思わない」理由として、「特に買い物で困っていないから：200 (56.2%)」が最も多く、次いで「品揃いが少なそうだから：51 (14.3%)」「値段が高そうだから：46 (12.9%)」となっている。年齢が高くなるにつれて、移動販売サービスを「利用したいと思う」の割合が高くなっている。

●油谷地区での生活の困りごとについて

- ・「地域を担う若者が少ない：512（65.8%）」が最も多く、次いで「生活交通が不便：395（50.8%）」「少子高齢化による人手不足：369（47.4%）」となっている。

●油谷支所・西消防署について

- ・油谷支所は、「建替した方が良い：364（46.8%）」が最も多く、次いで「建替せず、改修すれば良い：223（28.7%）」「建替しなくても良い：110（14.1%）」となっている。
- ・西消防署は、「建替した方が良い：417（53.6%）」が最も多く、次いで「建替せず、改修すれば良い：220（28.3%）」「建替しなくても良い：80（10.3%）」となっている。
- ・油谷支所と西消防署を建替えるとした場合、「集約した方が良い：487（62.6%）」が最も多く、次いで「集約しなくても良い：216（27.8%）」「その他：30（3.9%）」となっており、その建替え場所については、「現在の油谷支所：435（89.3%）」が最も多く、次いで「その他：35（7.2%）」となっている。また、併せて油谷保健福祉センターについても、「集約した方が良い：356（73.1%）」が最も多く、次いで「集約しなくても良い：111（22.8%）」となっている。
- ・油谷支所・西消防署を集約して建替を実施する場合、その施設に追加するとよい施設・機能は、「行政系施設：153（31.4%）」が最も多く、次いで「金融機関・郵便局：137（28.1%）」「保健施設：125（25.7%）」となっている。

●行政やこれからのまちづくりについて

- ・行政に期待していることや行政が果たすべき役割は、「若者等の定住促進：330（42.4%）」が最も多く、次いで「生活交通の支援：295（37.9%）」「空き家対策・空き家の活用促進：287（36.9%）」となっている。
- ・災害に備えて、特に準備が必要なことは、「適切な情報の周知：546（70.2%）」が最も多く、次いで「安全な避難所の確保：529（68.0%）」「備蓄品、防災グッズ等の準備・支援：400（51.4%）」となっている。

●定住・移住について

- ・今後の油谷地区へ住み続けたいかとしては、「住み続けたい：403（51.8%）」が最も多く、次いで「できれば住みたい：253（32.5%）」「あまり住みたくない：89（11.4%）」となっている。
- ・また、「住み続けたい」「できれば住みたい」と回答した理由は、「自分の故郷だから：389（59.3%）」が最も多く、次いで「土地やお墓があるから：359（54.7%）」「家族や友人、知人がいるから：325（49.5%）」となっている。なお、年齢が低くなるにつれ、「住み続けたい」の割合が低くなっている。
- ・「あまり住みたくない」「住みたくない」を回答した理由は、「交通が不便である：69（69.0%）」が最も多く、次いで「食料品店や飲食店が近くにない：58（58.0%）」「病院等が近くにない：48（48.0%）」となっている。また、10代から30代は、「仕事・働く場所がないから」の割合が高くなっている。
- ・油谷地区を離れた方々が、油谷地区に戻りたいと思うことや地域外の方々が油谷地区に住んでみたいと思うためには、どのようなことが必要なこととして、「働く場所や働く場所の紹介制度がある：227（29.2%）」が最も多く、次いで「まちの産業が活性化され活気がある：146（18.8%）」「定住を受け入れる体制が整っている：89（11.4%）」となっている。

●自由意見

- ・油谷地区が暮らしやすいまちとなるためのアイデアや人口減少を食い止める方法として、「企業誘致・働く場・創業支援」「移住・定住・UJI ターン」「交通」等のキーワードが多く挙げられている。

7.3 小さな拠点づくりに向けたワークショップ

(1) 地区別ワークショップ

●開催概要

油谷地区では、油谷支所や西消防署などの公共施設の老朽化に伴う公共施設の更新及び油谷保健福祉センターの適正配置と合わせて、国が推奨する「小さな拠点づくり」を目指して検討を進めています。

今年度から本格的に小さな拠点づくりを推進するための第一歩として、油谷地区に欠かせないもの（機能やサービス、地域での活動）や将来のまちの姿について住民の皆さまと共に考えることで、共に行動していくためのきっかけとなる地区別のワークショップを開催しました。

地区別（宇津賀・向津具・菱海）ワークショップでは、ワールドカフェ方式で、一人一人が参加者全員と対話できる機会を設け、現在の地区の課題や生活における困り事を共有しました。また、地区内における、今後のまちづくりの方向性（将来の姿や自分たちで取り組みたいこと等）について、住民の方々の意見をお聞きしました。

<プログラム>

- ① 開会
- ② 小さな拠点とは
- ③ ワーク（手法：ワールドカフェ）
 - ・地区の自慢、裏自慢
 - ・地区の困りごと、将来の不安
 - ・生活の中でなくなると困る機能・サービス
 - ・問題点を解決するため自分達でできる事
 - ・地区の将来の姿
- ④ 閉会

●宇津賀地区

開催日時：11月9日（月）18:00～20:00

開催場所：旧文洋小学校体育館

参加人数：15名



●向津具地区

開催日時：11月10日（火）18:00～20:00

開催場所：向津具公民館研修室

参加人数：14名



●菱海地区

開催日時：11月11日（水）18:00～20:00

開催場所：ラポールゆやコミュニティホール

参加人数：19名



(2) 全体ワークショップ

① 第1回全体ワークショップ

●開催概要

油谷地区では、油谷支所や西消防署などの公共施設の老朽化に伴う公共施設の更新及び油谷保健福祉センターの適正配置と合わせて、国が推奨する「小さな拠点づくり」を目指して検討を進めています。

今年度から本格的に小さな拠点づくりを推進するための第一歩として、油谷地区に欠かせないもの（機能やサービス、地域での活動）や将来のまちの姿について住民の皆さまと共に考えることで、共に行動していくためのきっかけとなる地区別ワークショップ（11月9、10、11日に実施）に引き続き、第1回全体ワークショップを開催しました。

第1回全体ワークショップでは、地区別ワークショップで出た地区別の将来像や問題点をもとに、油谷地区全体でみた時の問題・課題、それらを解決するために整えておくべきもの・こと（施設・サービス・活動等）を話し合いました。

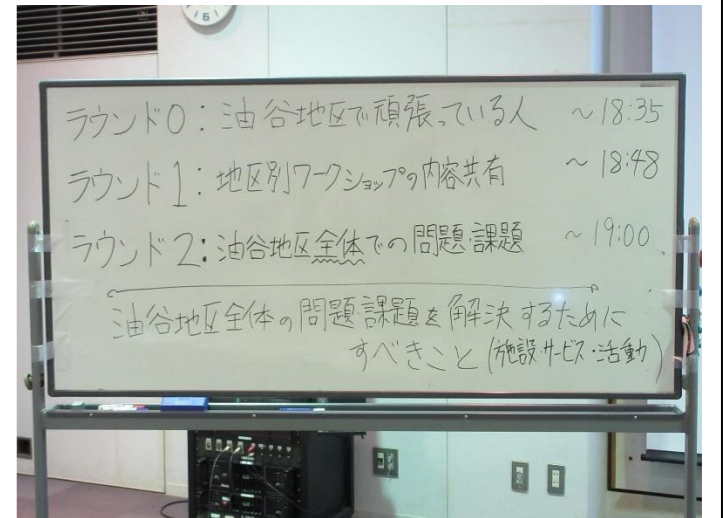
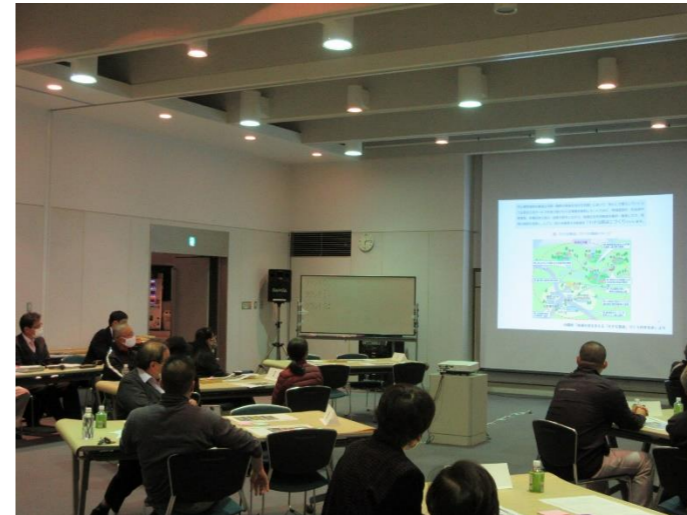
<プログラム>

- ① 開会
- ② 小さな拠点とは
- ③ ワーク
 - ・油谷地区で頑張っている人・団体
 - ・地区別ワークショップの内容を共有
 - ・油谷地区全体でみた時の問題・課題
 - ・問題・課題を解決するために、整えておくべき（施設・サービス・活動等）
- ④ 閉会

開催日時：11月25日（水）18:00～20:00

開催場所：ラポールゆやコミュニティホール

参加人数：28名



② 第2回全体ワークショップ

●開催概要

油谷地区では、油谷支所や西消防署などの公共施設の老朽化に伴う公共施設の更新及び油谷保健福祉センターの適正配置と合わせて、国が推奨する「小さな拠点づくり」を目指して検討を進めています。

今年度から本格的に小さな拠点づくりを推進するための第一歩として、油谷地区に欠かせないもの（機能やサービス、地域での活動）や将来のまちの姿について住民の皆さまと共に考えることで、共に行動していくためのきっかけとなる地区別ワークショップ、第1回全体ワークショップに引き続き第2回ワークショップを開催しました。

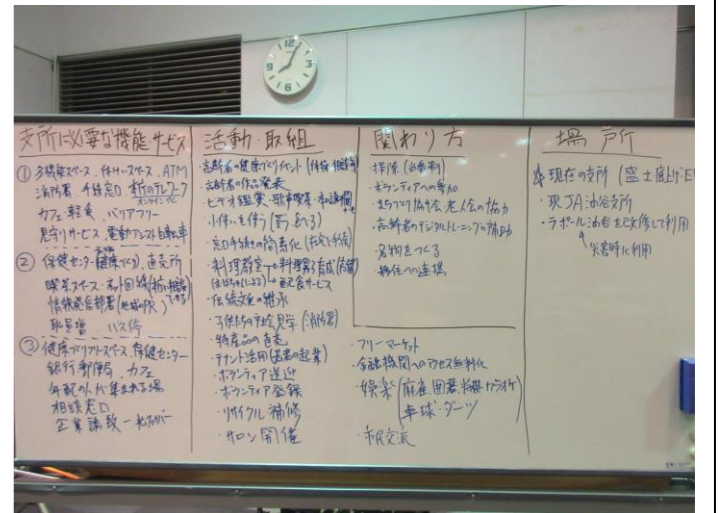
第2回全体ワークショップでは、第1回ワークショップをもとに、油谷支所に必要な機能・サービス、小さな拠点で自分たちができる活動と関わり方、支所の建替場所について話し合いました。

これらの全てのワークショップで頂いた意見をもとに、油谷地区小さな拠点づくり基本構想をとりまとめていきます。

<プログラム>

- ① 開会
- ② 小さな拠点とは
- ③ ワーク
 - ・共有 前回の振り返り・共有
 - ・検討1 油谷支所（小さな拠点）に必要な機能・サービス
 - ・検討2 小さな拠点で自分たちができる活動・取り組みと関わり方
 - ・検討3 油谷支所・消防署の建替場所について
 - ・発表
- ④ 閉会

開催日時：12月11日（金）18:00～20:00
 開催場所：ラポールゆやコミュニティホール
 参加人数：28名



長門市役所 油谷支所 地域窓口班
〒759-4503 山口県長門市油谷新別名 964 番地
電 話:0837-32-1111
F A X:0837-32-2778
策定支援:ランドブレイン株式会社 山口事務所

油 谷 地 区

小さな拠点づくり

基 本 構 想